

# 京都大学法学会学術講演会

平成9年春季学術講演会／平成9年4月24日	
労使関係の変化と労働法の課題	京都大学教授 村中 孝史
憲法問題としての国会改革	京都大学教授 大石 眞
平成9年秋季学術講演会／平成9年12月4日	
国際法の実効性と国内法	京都大学教授 安藤 仁介
日本の民事裁判を見る目	京都大学教授 谷口 安平
平成10年春季学術講演会／平成10年5月14日	
民族問題とフランス—第一次大戦を手がかりとして—	京都大学助教授 唐渡 晃弘
近代日本の君主制—その実態と政治的日英比較—	京都大学教授 伊藤 之雄
平成10年秋季学術講演会／平成10年12月3日	
表見代理の法的構成—民法110条を中心に—	京都大学助教授 佐久間 毅
大衆成員政党としての社会党—議論の前提—	京都大学教授 的場 敏博
平成11年春季学術講演会／平成11年4月15日	
海洋国家論とその後—高坂教授の日本外交論によせて—	京都大学助教授 中西 寛
経済機構改革と執行役員制度	京都大学教授 森本 滋
平成11年秋季学術講演会／平成11年12月9日	
国際商取引と紛争解決方法、適用法、法律家	京都大学教授 高桑 昭
陪審制度の周縁—古代ローマの場合—	京都大学教授 柴田 光蔵
平成12年秋春季学術講演会／平成12年4月27日	
抵当権に基づく妨害排除請求	京都大学教授 松岡 久和
民事手続法の改正と司法制度改革	京都大学教授 徳田 和幸
平成12年秋季学術講演会／平成12年12月14日	
刑法学はいかにあるべきか—犯罪の実体論的構造と認定論的構造—	京都大学教授 鈴木 茂嗣
憲法と最近の諸改革	京都大学教授 佐藤 幸治
平成13年秋季学術講演会／平成13年12月13日	
権力分立と『司法権』の観念	京都大学助教授 土井 真一
日本と自衛権	京都大学教授 浅田 正彦
平成13年春季学術講演会／平成13年4月26日	
ドイツにおける債権法の現代化と日本債権法学の課題	京都大学教授 潮見 佳男
行政改革と行政変化	京都大学教授 真淵 勝
平成14年春季学術講演会／平成14年4月25日	
民事訴訟法の再改正	京都大学教授 笠井 正俊
一九二〇年代小作争議と裁判—伏石事件の周辺—	京都大学教授 伊藤 孝夫
平成14年秋季学術講演会／平成14年12月12日	
社会保障と労災補償	京都大学教授 西村健一郎
日本における政治家・官僚の30年	京都大学教授 村松 岐夫
平成15年春季学術講演会／平成15年4月24日	
格差原理をめぐる諸問題	京都大学教授 亀本 洋
EU法と国際私法からみた、「ヨーロッパ契約法」をめぐる議論	京都大学助教授 中西 康
平成16年秋季学術講演会／平成16年12月11日	
民事裁判に勝つ方法—要件事実の話—	京都大学教授 前田 達明
無名契約の生成過程	京都大学教授 林 信夫
平成16年春季学術講演会／平成16年4月15日	
なぜカール・シュミットか？	京都大学教授 毛利 透
フランス民法典200周年—不動産物件変動に関するフランス法主義の再検証—	京都大学教授 横山 美夏
平成16年秋季学術講演会／平成16年12月16日	
国際法の普遍性と相対性	京都大学教授 杉原 高嶺
自律と強制、倫理と法の関係について—法曹倫理と生命倫理の対比を素材に—	京都大学教授 田中 成明
平成17年春季学術講演会／平成17年4月21日	
経済的地域統合の非経済的側面に関する比較制度分析	京都大学教授 鈴木 基史
リアルタイムな法？—伝統中国における法のあり方—	京都大学教授 寺田 浩明
平成17年秋季学術講演会／平成17年12月8日	
国際刑法の基礎	京都大学教授 高山佳奈子
市場化をめぐる動きと政治文化—比較史的検討—	京都大学教授 木村 雅昭
平成18年春季学術講演会／平成18年4月27日	
不作為不法行為	京都大学教授 橋本 佳幸
ドイツにおける立法過程の特質と連邦制	京都大学教授 服部 高宏
平成18年秋期学術講演会／平成18年12月7日	
責任観念のゆらぎ—現代の法とコミュニティー—	京都大学教授 棚瀬 孝雄

戦後60年の政治と政治学	京都大学教授	大嶽 秀夫
平成19年春季学術講演会／平成19年4月19日		
職権探知主義について	京都大学教授	山田 文
福祉国家の政治—過去・現在・未来—	京都大学教授	新川 敏光
平成19年秋季学術講演会／平成19年12月13日		
今、労働法と社会保障法の関連を考える	京都大学教授	西村健一郎
法人・知的財産権と古典的国際私法	京都大学教授	櫻田 嘉章
平成20年春季学術講演会／平成20年4月17日		
使用者責任の事例群と帰責論	京都大学教授	錦織 成史
取締役等の競業取引に関する規制	京都大学教授	北村 雅史
平成20年秋季学術講演会／平成20年12月4日		
企業買収と株主総会	京都大学教授	森本 滋
犯罪現象の研究と刑事制度—刑事学の百年—	京都大学教授	吉岡 一男
平成21年春季学術講演会／平成21年4月16日		
刑事訴訟の基礎理論 その歴史的意義と現代的意義について	京都大学教授	酒巻 匡
電子契約と民法法理	京都大学教授	山本 豊
平成21年秋季学術講演会／平成21年12月10日		
<p>国際シンポジウム  京都大学大学院法学研究科主催・京都大学法学会および科学研究費補助金（学術創成研究費）「ポスト構造改革における市場と社会の新たな秩序形成」共催による国際シンポジウム「法の統一と多様性」が、平成二十一年十二月十日（木）午後一時から法経本館大会議室において、多数の教員および学生の出席のもとに、次のとおり盛大に行われた。</p>		
<p>講演一  「英国法およびドイツ法における無体物に対する担保権」  ステファン・エンシェルマイヤー（イギリス・ヨーク大学教授）</p>		
<p>講演二  「グローバル化時代の知的所有権をめぐるフランス法とヨーロッパ法」  ミシェル・ヴィヴァン（フランス・パリ政治学院教授）</p>		
<p>講演三  「韓国民法の改正—法の統一と多様性」  鄭 鐘休（韓国・全南大学校法学専門大学院教授）</p>		
<p>講演四  「不当利得法に関する DCFR 第Ⅶ編—法の統一と多様性」  松岡 久和（京都大学大学院法学研究科教授）</p>		
<p>討 論</p> <p>司会 佐久間 毅（京都大学大学院法学研究科教授）</p>		
<p>コメンテータ  フェリックス・シュテフェック（ドイツ・マックスプランク外国私法国際私法研究所研究員）</p> <p>ラファエル・ドミンゴ・オスレ（スペイン・ナバーラ大学法学部教授）</p>		
平成22年春季学術講演会／平成22年4月15日		
刑事手続と犯罪被害者	京都大学教授	堀江 慎司
現代アメリカ政治と政党	京都大学教授	待鳥 聡史
平成22年秋季学術講演会／平成22年12月9日		
子会社の少数株主・債権者保護—我が国の企業結合法の行方—	京都大学准教授	齊藤 真紀
国際司法裁判所による紛争解決の意義	京都大学教授	酒井 啓亘